

朝鮮大学校 VS 法政大学

11月3日(日)
11:30K.O.
朝鮮大G

11位に後退してしまった朝鮮大と、8位に後退してしまった法大との対戦。法大も降格圏との勝点差は5であり、下位との戦いで勝点を失いたくない。朝鮮大は連敗脱出が至上命題だ。

その朝鮮大は前節、東海大に1-2で敗れてしまった。これで3連敗となり、得失点差で降格圏の11位に後退。3年連続の残留争いに苦しんでいる。このあとは上位勢との対戦も残っており、なんとしても連敗を止めておきたい。東海大戦は、立ち上がりこそ悪くなかったが、15分にカウンターからの流れから先制点を与えてしまい、そこから東海大に主導権を握られてしまった。思い切りの良くなった東海大にボールを支配され、後半にFKから追加点を許すと、ロスタイムに1点を返すにとどまった。「(荒れた)グラウンドに慣れるのに手間取ったが、先に失点したのが痛い」(金載東監督)。前回勝利している法大に、勝って勢いを取り戻せるか。

対する法大は前節、平国大と0-0で引き分けた。雨中の戦いで水たまりのあるピッチコンディションでは、なかなかパスワークが発揮できず。前半は平国大に押し込まれる展開が続いたが、ピッチに慣れてきた後半は両サイドハーフを中心に攻撃を仕掛けた。しかし、決定機

は少なく得点には至らなかった。「こういう天気の時、というサッカーをしたらいかが、自分たちで考え、ピッチの中で変えられないといけない。もっと柔軟性が重要」(大石和孝監督)。残留を争う下位との対戦が続く、戦いにくさもあるだろうが、持てる攻撃力を発揮できるかどうか。

<出場停止>なし / 3回警告: 康貴成(朝鮮大)、星雄次・森保翔平(法大)

<前回の対戦>朝鮮大1-0法大

朝鮮大	法大
2. 李永照	17. 森保
24. 鄭壯輝	24. 白石
4. 許亮	14. 松本
14. 朴利基	2. 宗近
17. 高志煌	5. 岩淵
28. 金成大	1. 四宮
21. 康貴成	6. 星
3. 李教俊	9. 高尚人
9. 高尚人	15. 高橋
20. 金慎也	16. 松田
22. 慎鏞紀	13. 木村
	30. 永戸

関東学院大学 VS 東京学芸大学

11月3日(日)
13:50K.O.
朝鮮大G

4位の関学大と、6位の東学大との対戦。関学大はまだ昇格の可能性を残しているが、ここ2試合は連続引き分け。数字上も昇格の可能性がなくなってしまった東学大は、前回対戦の雪辱を果たしたい。

関学大は前節、駒大と対戦して1-1で引き分けた。昇格を見据えた両チームの白熱した戦いは、ピッチ状態の悪さから前半はいずれもロングボールの応酬。26分に相手スローインから先制点を許してしまったが、ピッチ状態が回復してきた後半はサイド攻撃を多用し、68分に同点に追い付いた。シュート数も上回り、勝機もあった試合だけに、惜しい引き分けだった。「ピッチコンディションも悪く、力のある相手に十分に戦う気持ちを持ってやってくれたことは評価できる」(石村大監督)。今節は、前日の駒大の結果にもよるが、引き分け以下だと昇格の可能性が費える。DF土館賢人(3年)の出場停止が痛い、チーム力でカバーできるか。

一方の東学大は前節、神大に1-2で屈して第10節以来の敗戦を喫した。これまでは、勝てないまでも引き分けで粘り強く勝点1を奪ってきたが、前後半でまったく異なる展開となった神大戦は逆転されたまま敗戦。雨中の戦いで東学大らしいパスワークを発揮できず、前半

は相手CKのカウンターから先制点を奪ったものの、後半は相手の勢いに押されてファールが多くなり、FKで逆転弾を許してしまった。「後半の戦い方がよくなかった。目標とするプレッシングフットボールは、まだ自分たちの長所を出し切れていない。あと4試合でそういったプレーをぶつけていきたい」(西園聡史監督)。

<出場停止>木村魁人・萱沼優聖・土館賢人(関学大) / 3回警告: 久保海都(関学大)、廣木雄磨(東学大)

<前回の対戦>関学大4-0東学大

関学大	東学大
2. 吉田	5. 廣木
24. 普光院	18. 五十嵐
4. 久保	9. 岡
23. 長谷川	3. 成田
7. 太田	15. 菅
1. 守山	12. 須賀
34. 佐藤	10. 茶島
27. 原島	13. 中村
9. 富樫	4. 脇本
13. 吉田	14. 佐藤
8. 山本	25. 富澤

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.19
編集: 五味亜矢子 発行: 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ



上位5チームドロー! 今節にも昇格決定か

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは、いよいよ残り 4 節となり、昇格争いは今節にも決定する可能性が出てきた。首位の東国大は青学大に勝てばその時点で、2位の駒大は東農大に勝って青学大および翌日の関学大が引き分け以下ならば来季の 1 部昇格が決定する。

第 18 節の結果は、実に上位 5 チームが引き分けという接戦に終わった。東国大は東農大と 0-0、駒大は関学大と 1-1、青学大は拓大と 2-2。上位 2 チームがそろって足踏みとなったが、3~5 位も引き分けたため、今節での昇格決定の可能性が生じた。特に上位 2 チームとの直接対決となる 3 位・青学大と 5 位・東農大は、自力で追い上げの可能性を残したい。また、神大は東学大を 2-1 で下し 7 位に

得点ランキング	アシストランキング
12: 小牟田洋佑 (駒大)	7: 佐伯 拓磨 (東国大)
11: 関谷 祐 (青学大)	碓井 鉄平 (駒大)
伊東 純也 (神大)	6: 恵 龍太郎 (青学大)
9: 富樫 敬真 (関学大)	5: 田中 雄一 (駒大)
8: 加藤 龍治 (東国大)	今野 順 (東農大)
山本 大貴 (駒大)	長野 祐太 (神大)
内野 裕太 (拓大)	松田 有平 (法大)

浮上した。残留争いは、拓大が勝点 1 を上積みして降格圏を脱出、東海大に 1-2 で敗れた朝鮮大が 11 位に後退した。法大と 0-0 で引き分けた平国大を含め、熱い戦いは続きそうだ。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 18 節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	青学大	関学大	東農大	東学大	神大	法大	平国大	拓大	朝鮮大	東海大	勝数	負数	分点	得点	失点	得失点差	勝点
1	東国大		100	302	401	102	201	100	400	101	301	201	300 (没収)	12	2	4	39	17	22	40
2	駒大	001		401	200	302	402	401	200	304	200	102	401	12	3	3	41	21	20	39
3	青学大	203	104		11/9	11/2	11/16	100	404	101	201	200	100	9	5	4	31	22	9	31
4	関学大	104	002	000		003	400	002	201	300	201	400	300 (没収)	9	6	3	32	24	8	30
5	東農大	201	203	101	300		102	103	100	103	200	101	300 (没収)	9	6	3	28	21	7	30
6	東学大	000	204	001	004	201		302	001	301	201	200	201	7	6	5	24	25	-1	26
7	神大	202	001	102	302	301	203		102	301	205	201	102	7	9	2	32	33	-1	23
8	法大	004	002	104	102	001	100	201		101	102	001	402	6	8	4	31	32	-1	22
9	平国大	101	403	000	003	301	103	103	101		302	100	203	4	8	6	21	35	-14	18
10	拓大	002	101	004	104	青学大G	202	法大G	000		11/2	002	11/16	4	8	6	21	35	-14	18
11	朝鮮大	103	002	001	102	002	102	502	201	203		100	301	4	9	5	25	30	-5	17
12	東海大	002	201	201	004	101	002	102	100	001	001		401	5	11	2	17	32	-15	17
		003 (没収)	104	102	003 (没収)	003 (没収)	102	201	204	302	103	104		3	14	1	16	45	-29	10

※ 白抜き順位は確定。東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

悩むより、走り出そう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/

駒澤大学 VS 東京農業大学

11月2日(土)
11:30K. O.
駒陸

2位の駒大と、5位の東農大との上位対決。駒大は、勝って青学大および関学大が引き分け以下ならば3年ぶりの1部昇格が決まる。東農大は自力で駒大との差を縮めて昇格の可能性を残したい。

3位に勝点8差をつけている駒大は前節、4位の関学大と対戦して1-1の引き分けに終わった。雨のあとでピッチコンディションが悪いなか、前半はお互いにロングボールの応酬となったが、「小牟田(洋佑・3年)のところで競り勝っているが、そのセカンドボールが拾えない」(秋田浩一監督)というように、流れの中からは得点できず。26分にスローインからチャンスを得て先制したが、後半は関学大のパス回しにDFが崩され同点弾を許し、その後も押されながらなんとか1失点で切り抜けた。出場停止にリーチがかかっている選手が多いのも気になるが、流れを切らないためにも負けられない。

対する東農大は前節、首位の東国大と対戦し、こちらは0-0で引き分けた。昇格を目指すチーム同士の戦いは、球際の厳しい戦いにもお互いに譲らない一進一退の戦いとなったが、全体的には東国大に押し込まれる時間帯が長かった。「CKも(1本も)なかった。もう少し前で時間をつくれればよかった」と木村俊夫コーチが話

したように、前線でボールが収まらず、一方で得意のカウンターも相手の厚い守備の前に封じられた。前節の東国大、今節の駒大という2連戦が昇格への大きなカギを握る戦いだ、第一関門は引き分け。今節は絶対に負けられない。差を詰めることができるかどうか。

<出場停止>村山翔(東農大) / 3回警告: 碓井鉄平・キム デセン・伊藤慎人・田中雄一(駒大)、櫻岡徹也・佐々木翼・加藤聖哉(東農大)

<前回の対戦>駒大3-2東農大

駒大	東農大
3. 田中	23. 中西
11. 小牧	18. 今野
15. 川岸	3. 田村
6. 若山	10. 浜田
9. 小牟田	14. 石川
20. 立石	8. 佐々木
7. 碓井	6. 中垣内
4. 平尾	5. 櫻岡
19. 須貝	11. 井上
13. 大木	27. 加藤
1. 大石	30. 矢口

神奈川大学 VS 東海大学

11月2日(土)
11:30K. O.
古河

7位に浮上した神大と、最下位が決まってしまった東海大との対戦。神大は1年での1部復帰がならなかったが、前節も勝利への執念を見せた。一方、東海大は伸び伸びとしたプレーを見せて後半戦初勝利を記録した。昇格・残留争いは絡まないが、期待できる対戦だ。

神大は前節、東学大に2-1で勝利した。激しい雨の中、前半はペースをつかめずカウンターから先制点を許したものの、後半開始から2人の選手を交代して反撃。お互いDFの背後を狙う展開となっていたが、セカンドボールを支配して攻め込み、73分、79分と連続得点で逆転に成功した。シュートそのものは多くはなかったが、攻め込んだことで相手のファールを誘い、逆転弾はDF長野裕太(3年)がFKを直接決めた。「早い時間帯に失点してしまうのが直らない。次に向けて修正していきたい」(高峯弘樹監督)。上位グループ入りなるか。

一方の東海大は前節、朝鮮大に2-1で勝利。降格が決まって初の試合で、後半戦初勝利を挙げた。試合内容が大きく変わったわけではないが、15分に先制点を奪った後は特に動きがよくなり、荒れたピッチではあったが細かくパスをつなぎ、1対1の局面でもよく競り勝っていた。4年生の起用も目立ったが、今季初スタメンの

MF梶原大(4年)が2点目をFKで直接ゴール。最後は猛攻を受け1点を返されるも、逃げ切った。「今季は新しい東海大をつくろうと、勝ち負けにこだわらずやってきた。徐々によくなっている」(後藤太郎監督)。今後、対戦相手にとっては嫌なチームとなるだろう。

<出場停止>向山亮太(神大) / 3回警告: 杉山祐亮・秋山真太郎・武田将平(神大)、永吉惇起・木村竜也(東海大)

<前回の対戦>神大1-2東海大

神大	東海大
3. 高木	35. 岩壁
8. 須郷	27. 北原
2. 柿崎	34. 吉田
10. 伊東	3. 小山
28. 武田	25. 溝口
1. 阿部	41. 中西
16. 前田	26. 小野
5. 杉山	23. 木村
17. 盛	2. 太田代
22. 伏木	16. 寺尾
7. 長野	8. 梶原

拓殖大学 VS 平成国際大学

11月2日(土)
11:30K. O.
ゼットエー

得失点差で10位に浮上した拓大と9位の平国大、勝点1差の残留争い直接対決だ。どちらも、勝点3を積みれば非常に大きいだけに重要な試合。負けられない試合をモノにするのはどちらか。

拓大は前節、3位の青学大と対戦して2-2で引き分けた。試合開始3分で失点したものの、24分に自ら獲得したPKをFW内野裕太(4年)が決めて同点、後半開始早々に今度は拓大が得点して一度は逆転したが、58分にバックパスのミスから同点とされてしまった。「2失点目はコミュニケーション不足だった。守備における良い緊張感をもっと持ってほしい」(玉井朗監督)。最後は退場者が出たため、なんとか勝点1を確保した格好にはなったが、全体的にはシュートも多く勝機があった試合。これで3試合連続2-2というスコアで終わっており、勝点は地道に伸ばしていると言えるが、不要な失点を減らしたいところだ。

対する平国大は前節、法大と対戦してスコアレスドローに終わった。平国大も2試合連続の引き分けと、徐々に調子は上げているものの、なかなか勝ち切れるところまでいっていない。法大戦は、ピッチ状態の悪い中でも前半は思い切りよく仕掛けてチャンスをつくった。しか

し、課題は決定力。後半はピッチに慣れた法大の攻撃に受け身となったが、守備の破綻はなく勝点1をゲットした。「攻守にわたってよくハードワークできていたし、守備陣もしっかり身体を張って守っていた」(西川誠太監督)。相手も必死になってくる守りを崩していかで得点できるかが、今後のカギだ。

<出場停止>高橋賢司(拓大) / 3回警告: 鎌田秀平・堀越龍也(平国大)

<前回の対戦>拓大2-3平国大

拓大	平国大
28. 小畠	13. 竹内
16. 長沢	19. 堀越
3. 丸山	26. 小松崎
35. 宗像	6. 本田
9. 西岡	10. 堀越
11. 内野	9. 星子
7. 川崎	5. 鎌田
4. 金子	2. 須藤
36. 郡司	8. 横瀬
2. 三浦	16. 増田
1. 大坪	21. 荒川

東京国際大学 VS 青山学院大学

11月2日(土)
13:50K. O.
古河

首位の東国大と3位の青学大との対戦。東国大は勝てばその場で来季の1部昇格が決まる。青学大は、自らの昇格の可能性を残すため、絶対に負けられない試合だ。

東国大は前節、東農大と対戦してスコアレスドローに終わった。昇格の可能性を残す東農大が相手だったが、東国大との勝点差は10あり、実際には最低限「負けなければいい」という試合であった。前日に、優勝を争い勝点1差の駒大が引き分けたことも大きかっただろう。前田秀樹監督も「ウチは勝点1を取りたいから、負けられないサッカーをしなければいけなかった」と話した。ピッチ状態が悪く自然とロングボールの応酬にはなったが、東農大には前回の対戦で敗れており、ポゼッションをしている中でボールを奪われカウンターを受けるパターンを避けたと言える。今節も負けなければいいという余裕はあるが、青学大には後半戦初戦で勝ったものの数的優位というアドバンテージがあった。油断は禁物だ。

その青学大は前節、拓大と2-2のドロー。上位2チームがそろって足踏みしただけに、痛い引き分けであった。試合は、開始3分で先制しながら24分にPKを与えて同点。今度は後半開始早々の49分に勝ち越されたが、58分に相手のミスを逃さず同点とした。その後も優勢

に試合を進めたが、シュート数が相手を下回るなど、最終局面での詰めが甘さが目立った。「雨であっても、ボールの取られ方は注意深くすべきだった。得点機会は多かったのも、もっと早く展開するなど点を重ねられるようにしたい」(宮崎純一監督)。前回対戦のイメージは悪くなかっただけに、自力で昇格圏との差を縮めたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 加藤龍治(東国大)、京谷季樹・水島雅之・服部真矢(青学大)

<前回の対戦>東国大3-2青学大

東国大	青学大
22. 新地	3. 早田
17. 小玉	7. 荒木
5. 川島	15. 水島
10. 若井	14. 伊藤
9. 福島	18. 関谷
21. 今野	6. 高山
14. 上船	12. 高橋
3. 阿部	10. 木澤
4. 加藤	5. 京谷
11. 高橋	16. 恵
2. 伊東	20. 服部